

平成19年度 第1回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

日 時 平成19年8月27日(月) 14時00分～16時00分

場 所 米子ワシントンホテルプラザ

出席者 委 員： 藤田教正 矢末 誠 河合 一

山口和彦 森脇 孝 金田 昭

本 校： 校 長 水島和夫 副 校 長 小田耕平

教務主事 香川 律 学生主事 山藤良治 寮務主事 竹中敦司

事務部長 神原敬三 地域共同テクノセンター長 足立新治

総務課長 渡邊正則 学生課長 山根茂雄

総務課長補佐 田内和夫 総務係長 中井義宏

テーマ 「自己点検評価について」

1. 開会挨拶

校長から、開会に当たり、評議員に対し、就任と出席のお礼及び今回の評議員会においては、大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審するために作成した自己点検評価書の一部である基準7と基準8の学生支援等と、施設・設備について意見、提案をいただきたい旨の挨拶があった。

2. 議事進行

(1) 会長選出

会長に河合委員が選出され、評議員会規則第5条第2項の規定により、会長が議長に就任した。

(2) 進行方法等について

河合議長から、本日の会議の進行方法等について、小田副校長へ説明依頼があり、小田副校長から、本会の主なテーマは、機関別認証評価の自己点検評価書について、基準7の学生支援等及び基準8の施設・設備に関する事項について、各委員から意見、提案の依頼があった。この基準については、教員の配置であるとか、本校の教育内容とか、そういった基準もあるが、基準7、いわゆる教育以外の学生の支援にかかわる部分、それと学習環境、すなわち施設・設備に関する事項について、議論していただきたい旨の説明及び依頼があった。

(3) 議事進行

副校長から、配付資料「学生支援及び施設設備に関する評価について」に基づき以下の説明があった。

(○印：各委員，●印：本校)

● 基準7-1について

観点7-1-①学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているかということで、本校では、準学士課程の入学生に対してオリエンテーションを入学式後、実施しております。また、ロングホームルームにおいて、教務主事の方から学習に関する説明も行っております。

第4学年への編入学生については、入学前のいわゆるガイダンスと、それから各教科、数学、英語、理科、これらにつきましては、学習についての事前の学習をやっています。専攻科につきましては、入学式後にガイダンスを行っております。

学生からの相談事につきましては、本科課程ではクラスごとに担任を置き、学生からのいろんな相談に応じております。教科担当の方は、シラバスに基づいて学習についてのアドバイスをを行い、オフィスアワー等で対応しています。

学生相談室に常勤の教職員を配置し、外部からの精神科医、臨床心理士にも来ていただいて相談に当たっています。

学生相談室の相談件数が、年々増えているという現状は主に生活の悩みというふうに聞いております。

観点7-1-②自主的学習環境、学生が自主的に勉強するような環境が整えられています。これには、大きく図書館と、それからその他のスペースということでございまして、図書館においては、土日、それから長期休暇も利用できます。また、インターネットを利用するコーナーも配置しています。

図書館情報センターでは、情報処理教育を行う施設であり、ここには端末室並びにインターネットルームが設置されています。授業以外に利用する学生が4割おり、また、昨年度整備したe-L教室、語学教育施設は、現在、放課後等を使って、英語学習を行うことができるようになっています。あと学習アトリエ、コラボレーションゾーンといった、ゆとりの空間あるいは学習を行う部屋を用意して、自主的な学習ができるようにしております。

観点7-1-③学習支援に関する学生のニーズ、例えば資格試験あるいは検定試験の受講、それから外国留学、こういったものの学習支援等、学生のニーズが適切に把握されているかということについては、学生の要望を聞くために、教科につきましては学生による授業評価アンケートを実施しております。授業評価アンケートの学生の意見等を次年度のいわゆる授業に役立てるということを行っております。それから、授業評価アンケートの結果は、校内専用のウェブページで公開を今年度から実施しております。

そのほか、資格試験の受検案内を行って、推奨をしています。学生相談箱というものを校内に3カ所設置して、学生からの意見等を入れてもらうようにしております。

観点7-1-④資格試験等に関する案内は、掲示等で行ったり、あるいは学科の担当教員が学生に対して行っております。

それから、TOEIC、実用英検、工業英検については、試験に合格又は成績良好な者については、英語自由選択の修得単位として認定し、各受検を奨励しております。

それから、外国留学につきましては、外国の大学、高等学校で学習した単位を30単位を超えない範囲で認めるということで、外国留学についても奨励、支援をしているという状況です。

資料7-1-④-1を見ていただきたいのですが、資格試験等の合格状況がそこに出ております。ややTOEIC等の合格状況が全体的に少ないかなというふうに見受けられます。そのほか、専門学科における資格等の奨励等がなされて、ある程度の人数がその資格試験に合格しているということがうかがえます。

特別な支援を行うことが必要と考えられるもの、例えば留学生、編入学生、それから社会人学生、障害のある学生等に学習支援体制が整備されているかについてですが留学生の指導につきましては、留学生指導教員という者を各専門学科で1人割り当てます。同じクラスの学生をチューターとして配置して、学習及び日常生活の支援を行っております。

編入学生につきましては、教務主事あるいは各専門学科の教科指導を行って、数学においては補習の授業も行っております。それから、障害のある学生について本校には現在、車いすを利用している学生が専攻科に在籍しております。これは本科

入学のときから既に事前にわかっていたため、早くから学校としても対応をし、エレベーター、スロープ等バリアフリー化をして支援をしております。

観点7-1-⑥これは学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に関する支援体制が整備されて、機能しているかということでございますが、本校には、20の文系系クラブ・同好会、それから18の運動系クラブ・同好会があります。学生会活動といいますのは、高専祭とか、あるいは球技大会とか、そういった行事等がございます。そういったものを運営している組織が学生会でございます。学生会に対する支援と、それから各種コンテスト、いわゆるロボコン、プロコン、デザコンと教職員が指導・助言を行うということでございます。

クラブ・同好会にそれぞれ指導教員を配置して外部コーチも導入して、クラブ・同好会の指導をいたしております。また、リーダー研修会を行って意識の高揚を図っております。

<質疑応答>

- 図書館の利用者数が毎年減少傾向にある原因は何か。

蔵書の充実とインターネットを利用した情報入手を両立させる必要があるが、どのように考えているか。また、文字を読むということは非常に重要なことなので、今後とも読書については充実をお願いしたい。

- 各研究室には、インターネットにつながったパソコンを利用できる学習アトリエというところもございます。昨今、図書館にはパソコンの台数が少なく、入館者数の方がやや減少しているのかなというふうに考えています。むしろ逆にインターネットのアクセス件数であるとか、そういったものを見ると、逆の傾向が出ていると思われま。図書館の本を大いに読ませなければならないと思っています。図書館の方でも、これは対策といたしますか、読書感想文のコンクールを毎年やっております。たくさんいろんなメディアが出てくると、ある程度やむを得ないような状況があるかと思っておりますけれども、例えば文学とか、そういったものをしっかり読んで、学生達が自分たちで考える。本校の教員あるいは図書館の努力で、ある程度は大丈夫といえます。図書館は県や市の図書館と連携協定を結んでいます。図書の貸し出しについてネットワークが作られて、蔵書があるところで借りられるシステムを今やっております。ですから、本校になくても他の図書館にある蔵書であれば読める

わけです。図書館への要望というアンケートの結果からは、専門書、中でも最近の蔵書がやや不足しているという意見がありました。蔵書の問題も一部あるかもしれませんがインターネットの方がやはりきいているのかなと思われま

- 学生相談件数の実数が毎年伸びている原因は何か。高専の場合は5年間ほぼ同じクラスで過ごすわけだが、対人関係が非常に重要になると思われるので十分配慮願いたい。
- 登校拒否問題ではないと思うのですけれども、例えば対人関係であるとか、あるいは進路の悩みであるとか、そういったものを考える学生が増えてきています。特に集団生活をしていく上での対人関係等々、こういったものが最近、悩む学生が以前に比べて増えていきます。学生相談室の存在そのものが学生の中に浸透してきたというふうにも考えられるんじゃないかとも思っております。
- 学習アトリエやコラボレーションゾーンが充実されているが、そのフロアを利用することにより、学生と教員の関係が非常に良くなっていると感じるが、その点はどうのように考えているのか。また、以前は別な用途となっていたと思うがどのように捻出したのか。
- 例えばコラボレーションゾーンで教員にいろいろ質問しながら勉強しているという姿をこの場所で見ることができます。また、各学科の展示であるとか、こういったものがされて、全教職員の目に触れることができ、役に立っていると考えられます。もともと研究室が、設置基準の面積よりも大きかったのです。それはもう既に一緒に学生と住んでいたりして、そういう面積になっていたわけですが、教員の部屋と、その前に廊下を挟んでコラボレーションゾーンというものを結局つくったということです。そうすると、教員のプライバシーの確保もできたし、それから学生は、その教員が空いているときは自由に質問とか、そういったことができるという、そういう学習環境にしたということです。
- 県下の高校では昨年度から不登校の出現率が高くなり、全国平均まで上がったと

ということで、対人関係が非常にもろく、不登校になりやすいというような現象が起きている。高専ではあるのか。あるとすればどのような取り組みを行っているのか。

- 本校でも、この4月から、保健室登校が1名、それから発達障害、アスペルガー症候群の学生が1名、こういう学生の受け入れがあったので、学校の中の体制整備を、例えば小・中・高のような学習支援コーディネーターなどの設置を含め検討を始めたところですよ。車いす学生が在籍しておりますので身体障害も含め、健常者と同様に安全・安心な教育環境、これが提供できるように、この1年で体制整備をしてゆこうと考えています。

○ 資格試験の合格状況は3年間の実績は6%~10%と記述してありますが、全国比率でどのような位置にあるのか。また、年度によって合格者のバラツキがある点及び学校としての支援体制はどのようになっているのか。それと、資格については、やはり自分の目指す道について、どういったものが必要なのかという情報を提供してあげることとともに、どの辺の単位まで取れたら受検資格があるよという情報も必要なんじゃないかというふうに考えますので、これらの情報を学生に適宜提供していただきたいと考えています。

- 数的な問題ですが、御指摘のように、かなり少なく、全国平均がどれくらいなのかは、わかりません。ただ、以前は、実用英語検定等につきましても、全国高専でも受験生というか、合格者数はトップクラスになっていた時がございます。ただ、だんだんと実用英語検定とか工業英語検定というのが、TOEICにシフトしてきています。問題は、お金がかかるということと、それから本人達がどのくらい必要度を感じているか、このあたりの多少啓蒙が足りないのかなという気はいたします。年度ごとのばらつきは、これは恐らくクラスで例えば受ける学生が多ければ、その年度は多いということを反映しているんじゃないかと考えています。

ただ、学校として、やはり実は卒業生のアンケート等を見ても、資格取得を要望として出てきておりますので、そういったいわゆるキャリア支援の範疇だと思うのですけれども、そういったものを少し支援活動でやっていかなきゃいけない

かなというふうに考えています。今、このキャリア支援につきましては全学的な取組をするということで、4年生、5年生の担任を中心にキャリア支援をどうやっていくか、これまでは学科ごとにばらばらにやっていたという、こういう支援活動について全学的な取組に持っていかうと計画しているところでございます。学校としては、積極的に対応したいと考えています。

- ちょっと補足をいたします。英検なんか、工業英語検定、実用英検は結構受けているのですが、TOEICがちょっと少ないのは、これはやっぱりこの数字を見て、それは歴然としております。実はほかの高専で、例えば専攻科の修了要件にTOEICスコアを盛り込んでいる高専もあります。TOEICなんかを修了要件にやっているところと比べれば、若干取組みが私は遅れているんじゃないかと思っております。ただ、現実問題として、TOEICを修了要件に組み入れ、全員に受験させるというところまでは難しいかなという気もいたしております。

なお、こういう英語力は、これから非常に重要なものになってくるわけですので、先ほど副校長も言いましたけれども、本校の卒業生なんかにアンケートをとったりしたときに、やっぱり英語力などはもっと勉強しておけばよかったといったような意見もありますし、本校の卒業生で実際に社会に入って、海外に赴任をしている人、結構いるんですね。なぜいるのがわかるかという、英語の卒業証明書とか成績証明書の作成を頼みに来るんですが、その際に校長のサインが要りますから、結構私のところへそれが上がってくるのがあります。これが月に数件あり、今の社会は結構英語が必要な社会になっているのを実感しておりますので、これからの課題としてはこの英語力を伸ばしていく方策を考えなければならないと思っております。

ちなみにその一環として、e-L教室という、LL教室じゃなくてeラーニングで英語力を伸ばす、そういうことに対応できる特別な教室も昨年度、整備をいたしました。TOEIC対策のソフトウェアも入れまして、TOEICを必ず受けるとは現時点では言うておりませんが、学生たちがTOEICを受けることについて、勉強できるような環境は一応作っております。これからそういった施設などを使って、まずは学生達の自らの努力でTOEIC等、どこまで伸ばしていけるかというのが差しあたりの状況だと思っております。

○ 留学生の受入は、国際的な支援として重要と考えるが、今後の考え方を含め学校としてどのような考え方を持っているのか。また、編入学生の状況についても伺いたい。

● 外国人留学生については、大学に比べ、高専の場合は在籍留学生の数は非常に少ない。6名とか5名とか、これだけ国際化が叫ばれ、特に鳥取県のようなローカルな土地柄では、周りに外国人がふだんいて、その中で暮らす、そういう体験が非常に少ない。そういう意味で、自分がふだん暮らしている教室の中に外国人がいる、こういう教育環境を整備するということは、日本人学生にとってもこれは大変好ましいことだと思っております。米子高専では、これまで留学生指導教員を中心に教育支援体制を作っていましたが、6年程前に文部省が掲げていた留学生10万人計画も突破し、逆に留学生の質がかなり落ちてきているとの指摘や、留学生の中には修学困難になり留年したという現実も他所では聞いておりますので、留学生指導教員のマン・パワーではなく、もう少し受け入れの仕組み、修学の仕組みなど、仕組みの整備を進めなくてはいけないと考え、昨年からは教務として体制整備を進めております。今一番心配しておりますのが、留学生の奨学金の問題です。米子高専の留学生には、マレーシア政府派遣と、それから国費留学生と2種類あるのですが、政府派遣ではなく、特に国費留学生の方で、奨学金の延長が非常に難しくなっております。奨学金の延長と言いますのは、外国人留学生の場合そのほとんどが母国で大学に在籍しています。それがなぜ日本の高専に留学するかと言ったら、やはり最終的には日本の大学に進学したい、これが本音なのですね。そうすると、高専から更に大学に編入学をしたい、ところがその際に奨学金が延長されないと彼らにとっては経済的に非常に困ることになります。従って、普段の勉強とか生活支援とか、そのような事も併せて、これから検討し整備して行こうと考えております。

次が編入学生です。先度、ちょうど来年度入学する編入学、転入学、ことしは転入学も1名おりましたので、編入学・転入学試験を実施したところです。合格発表前ですので、何人受かったのかと言うのは申し上げることはできませんが、合計21名受験いたしました。中国地区でこの数を紹介すると、米子高専は多いですねと皆さんおっしゃいます。

ただ、これも最近よくあるのですが、編入し、その後留年、揚げ句に退学していった学生まで中には出始めております。そこで、今年度、“再チャレンジ”こう銘打った予算措置の案内が文部科学省から届き、その中に編入学に対する手当もありましたので要求しておりましたら、50万円弱ですが通りました。従って、不足している学力を補填するための補習とか、この後、実施するよう予定しております。受入に関しては多い学科、少ない学科というのが編入学についてはあります。米子高専では、物質工学科と建築学科の2学科が、中国地区高専の中では特別な学科ですので、特に建築学科の希望は例年多くいます。それと、編入学生や留学生は、毎年受け入れるわけではありません。やはり在籍学生数が非常に多くなりますと授業上の問題も出てきますので、在籍者数を見ながら受入れをやっております。43名ぐらいが大凡の基準で、余裕があれば、外国人留学生も、それから工業高校、普通高校からの編入学も受け入れております。

- 授業評価アンケートに関し、各授業ごとにアンケートを取り、項目ごとに点数化しているのか。また、トータルで何点という形で評価され公開されているようだが、どの程度まで情報を公開しているのか。内容によっては教員が特定されることになるが、抵抗はなかったのか。
- 上位何名ということですね。上位例えば3名、学科ごとに、あるいは全校何名。教員の名前は出さずに、A教員のこの授業は各項目何点という形で全部公表しています。教科名が出ていますので、特定できます。
- 相談箱を設置してらっしゃるようですけれども、目安箱ですね。これはどんな形でお使いになっているのでしょうか。
- これは学生相談室が設置しているということです。学生の方で相談室に何か相談したいというときに、顔を合わせたくないというような場合がありますよね。そういうものについて相談箱が利用できるということです。
- 非常勤の先生って何人、今おられるんですかね。この非常勤の先生の選任はど

ういうふうにしておられるのか、ちょっとその辺が気になっていまして、現実
今、非常勤の先生が何人教えておられるのか。

- 非常勤講師については選考委員会が必ずあって、経歴とか、授業内容、受け持
っていただく適否を審議しております。一般科目、常勤が24に対して非常勤が
17です。専門の方ですけれども、常勤が53に対して非常勤が39です。専門
の方は企業経験者の方が極めて多いということです。先ほど教務主事が言いま
したように、選考委員会を開いて、選考基準に基づいて採用しております。

- 基準7-2について

ここの観点は、先ほどの7-1で出てきたことがかなりダブっていますので、
その点につきましては省略させていただきます。

観点7-2-①学生の生活や経済面にかかわる指導・相談・助言、こういうも
のをを行う体制が整備されて、機能しているかと。生活面は、先ほど言いましたよ
うに、担任を中心にしてやっているということで、経済面につきましては、これ
は授業料免除、奨学金、こういったもの、学生委員会という組織で対応していま
す。

観点7-2-②特別な支援を行うことが必要と考えられる者、留学生、障害の
ある学生等の生活支援について、学生寮を完備し、また、留学生交流会を毎年開
催して、情報交換等も行っております。障害を持つ学生につきましては、先ほど
も言いましたように、バリアフリー化を行っております。

観点7-2-③通学に困難な学生のために学生寮を設置しております。

寮生の指導は、寮務部、ここにおられます寮務主事を中心に寮務部教員、それか
ら当直者、これは男性教員が当直に当たっております、寮生の指導、寮生は、
いわゆる近隣の神社のボランティア活動、清掃奉仕、こういったものも自主的に
行っております。

観点7-2-④就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能してい
るかということ。これは、進路指導に関する事項でございますが、この指導は主に
第5学年の担任を中心に指導をしております。学生や保護者との懇談あるいは求
人に来られる会社との対応、こういったものを5年の担任が行い、進路指導をし

ております。そのほか、第4学年の学生においても、進路に関する情報を提供したり、あるいは就職セミナーという就職等に関する学生への啓蒙、こういったものもやっております。

<質疑応答>

- 学寮については、神経を使っているようであるが、昔の体育会的な存在があって、近所に迷惑を掛けるとか勉強をしたいのに騒がしいとかということはないか。

- やっぱり今の子供、1年生、特に入ってきたばかりの子供は、なかなか言うことを聞いてくれないんですね。どうやって動かすかということは、やはりある程度体育会系でないと動かないだろうと思いますね。その辺のこともありまして、実際には今もある程度は体育会系です。

- 優れた点及び改善を要する点の評価の記述があるが説明してもらいたい。

- 本校は他高専に先駆けて、いろいろ、いわゆる学習環境といいますか、施設の整備をやりました。先ほど申しましたコラボレーションゾーンとか、あるいはマルチメディア自習コーナーと、こういった自学・自習をする場を設けたということで、学習環境の整備を図っています。

- 改善を要する点はありませんか。

- 本当はたくさんあるのかもしれませんが、なかなかまとめきることは困難です。

- 情報ネットワーク関係で、例えば鳥取環境大学ではパソコンを入学時に購入させているし、鳥取大学でも1年生の英語教育面で必携にしている。私はこのことには多少疑問に思っているが、高専ではパソコンの個人購入についてどのように考えているのか。

- 一部学科で、例えば建築学科、本校の建築学科というのはコンピューターを使ったデザイン教育、教員の指導の中でそういうことをやっている場合がありますけれども、学校全体としては、やっぱりノートPCといっても大変高価なものですし、それから中に登録するアプリケーションも加えれば、かなりの額になります。従って、基本的には学校として、用意をしましよと、こういう考え方です。
- 学科の自治というか独自性・自主生というか、その辺はどのように考えているのか。特に独法化になって執行部のリーダーシップの必要性が求められているが、長い伝統・歴史があり難しいのではないかと。
- 学科の縦割りというのは結構きついものがあります。例えばオープンキャンパスなんかやりますけれども、これは最初の全体的な、私と教務主事の学校全体の話はほんの20分、その後、各学科へ行って2時間半だったかな、しっかり学科内の見学、そして学科でいろいろな模擬授業、こういう形でやっているの、私はこれは幾らなんでもどうだろうということで、今後、検討してまいるようにしていますけれども、これは一つの例です。今は融合の時代ですので、その壁をだんだん薄くしていくにはどうしたらいいだろうかという課題だと思っております。
- 電気情報工学科の学生の図書館利用状況が突出しているようだが、何が原因なのか。これは先生の熱意ですかね。
- レポートを書くのにかなり利用されている。特に電気情報工学科はというふうに理解しております。電気情報工学科は大変レポート提出に力を入れています。
- 基準8施設・設備について
以前、実習工場と言ったんですが、これがものづくりセンターとし、全国高専に先駆け、本校では整備されました。全国1番と言っていいぐらいの工作実習環境、これが整備できたと思っております。今年も2つほど公開講座をやりました。昨年度行いました公開講座、これは奥出雲の方が、やはりたたらふるさとということに

なりますので、ミニたたら製鉄ということで公開講座をやりましたら、東京の素形材センターの方からこれ表彰をしていただきました。それからもう1点、情報ネットワーク関連ですが、地域共同テクノセンターの方には、鳥取情報ハイウェイ、これの枝線、これを用意しておりまして、ギガビットネットワークを利用した、いろいろな用途開発ですね、地域企業の方と一緒に提案を続けております。産業技術センターの方からも大いに御協力をいただいております。この地域共同テクノセンターに置いてあります設備を利用したハイビジョン映像伝送実験というのですが、これにつきましても、NICTの方から地域貢献利用促進賞というのを先度いただいております。これについてはテクノセンター長の方に御紹介いただいた方がいいのかもしれませんが、以上2点、御案内させていただきました。

● 導入していた設備を本校、それから地域企業、それから産業技術センターと一緒にハイビジョン映像の伝送実験をさせていただきました。現在も、いろいろな研究に利用させていただいているというところです。

○ それでは、設備等につきまして余り質疑がないようですので、全体について再度質問し忘れたとか、これはもう少し確認したいということがございましたら、よろしくをお願いします。高専さんの方から何かもう少し補足はございませんか。

● 実は米子高専、昔からこの地域の非常な御理解と御協力をいただいて活動ができております。金田理事長の鳥取県産業振興機構、森協会長の米子高専振興協力会、それから進路変更などに関し教育委員会から大変お世話になっております。それから、後援会からはいつも多大なご支援をいただいておりますし、鳥取大学からは、本校教員がいつもいろいろ勉強させて頂き、大変有り難く感謝しております。

ちょっと気にかかっておりますのは、同窓会なのですね。米子高専もスタートしてから、40数年たちますので、第1期の卒業生、企業に於いても、かなりの職責についておられます。やはり高等教育も充実期に入ったのであれば、同窓会からも米子高専にどんどんハッパをかけて頂き、色々ご提案なども頂きたいと思っています。その意味で、先度、副校長が卒業生の現状、企業においてどのよう

な評価を頂いているのか、我々学校関係者も非常に興味を持っており体制整備にも繋げて行かないといけませんのでアンケート調査を実施したところ、卒業生の所在がほとんどつかめていないんですね。現在の同窓会名簿は、私が中心になって大阪の業者に委託作成をお願いした当初は、所在の判明率が98%程度だったと思います。今は、相当に落ちていると思います。個人情報保護の観点もあって、これはなかなか難しいとは思いますが、何かその辺で、学校としてもこういう事をやって欲しいと言ったご示唆など同窓会長からお願いしたいと思っています。

○ はっきり言いまして、なかなか難しい。先ほど言われました個人情報保護の関係で、どこの同窓会も同じなんですけれども、非常に出にくいということがございます。それと、本校の場合は残念ながら5,000人を超えていますので、個人情報保護の対象団体になるということで、そういったこともあって非常に難しいというのが現状です。そうは申しましても、判明率が大体今で多分8割ぐらいでしょうか。そういった状況なので、多分近々、来年か再来年にはまた新たに作るということになりますけれども、こういったものの経費的な負担、今後は多分今までのような同窓会名簿というものが発行できないというふうに実は考えております。その際に、こういった対応策があるのかを考えていかないと、名簿の整理というものがなかなかできにくいというのが現状です。経費負担も含めての検討を今後していかないと、そういったものが今後は多分作成しにくくなると思っています。また、こういったものでこういった方法があるのか、もしあるとしたら個々の情報料という形で取っていかざるを得ない。そうしないと情報の管理ができないというふうに実は考えています。そういったことが果たして5,000人ちょっとの規模の団体でできるのかどうかというところを考えないことには、今後、多分名簿作成自体ができないと考えています。

● 1点お伺いしたいのが、今、名簿作成にかかる経費の事を挙げられました。それは私自身としても当初一番重要に考えた点だったんです。そこで、大阪の業者と言うのは、学校の経費負担は全く無く、名簿の売上代金だけでペイするシステムを提供しているはずで、もし今、経費負担が非常に問題になっていると言うことは、やはり判明率が下がり、実際名簿を作っても、それが全く捌けないのじゃ

ないかと考えています。同窓会名簿を見ましても、不明者の中で、我々が所在を承知している卒業生が多数います。ただ、これについては、どこかで包括的な合意を得て置きませんか、我々が勝手に情報提供できません。どこかで1回、卒業生に対して住所など名簿に記載することを了解して頂く事ができないでしょうか。これが実現できれば、私は現在、電子制御の所属ですが、大幅に判明率は上がると思います。どこの学科でも研究室単位ではかなり把握できているはずです。

○ それについては、やはり今回といいますか、次回、作成する段階での了解をとる、実際作成するものかどうか、ちょっとそのところも検討していかないといけないのですが、そういった対応をとらざるを得ない。本人了解以外ではちょっと情報というのは公開できないようになっていきますので、そういった了解をとらなくてはならないと考えています。

○ 議長のまとめ発言として、今回は機関別認証評価の自己点検評価に関し、主に学生支援について各委員から意見を伺った。自己評価書というのは、学生支援についても、きちんと体制が整備され、それが機能していることを証明するということが、評価書を作成することが最初の仕事と思われる。これに対する意見や質問は全部大切なものであるが、適切に軽重を判断し、事項の整理をしていただければ有り難いと思う。

3. 閉会挨拶

校長から、閉会に当たり、語学力の向上等、若干気にしていたこともはっきり指摘いただき大変に参考になったことと、長時間にわたり、貴重な意見をいただいたが、今後は認証評価だけでなく、米子高専の進め方の中でも十分に参考にさせていただきたい旨の挨拶があった。